

文化を通じて質

.....郷土博物館・市民会館

の高い「人生設計」を学ぶ場として



郷土博物館と 市民会館のあゆみ

野田は、江戸時代から醤油醸造業の町として栄え、豊かな文化的土壌が育まれてきました。

そのため全国的にもかなり早い昭和20年代に、郷土の自然や文化、産業を広く紹介しようとする博物館の建設の気運が高まりました。

これは郷土に愛着をもち野田の文化活動を担ってきた多くの市民の強い熱意あつてのことでした。その後、縄文時代や古墳時代の

野田駅から徒歩8分、ベンガラ風の塀で囲まれた敷地の中に郷土博物館と市民会館があります。市民会館は築約85年の和風建築で、野田醤油株式会社(現在のキッコーマン株式会社)創業者の一人茂木佐平治氏の旧宅を、昭和32年に市民会館として開館した建物です。また郷土博物館は昭和34年に完成した、千葉県で初めての登録博物館です。約50年の時を経て、この二つの施設は、市民一人ひとりが自立した生き方を設計する「市民のキャリアデザインの拠点」として、新たな転換点を迎えています。

遺跡の調査が進められ、また展示会や講演会も行われるなどとして、昭和34(1959)年、野田市郷土博物館は開館しました。

なお建物の設計は、後に日本武道館や京都タワーなど設計を手がけた建築家・山田守でした。

一方、市民会館は醤油醸造家の茂木佐平治家の旧宅をほとんど往時のままに残す、歴史と風情あふれる和風建築です。

開館した当初は予防接種や結婚式の会場として市民に利用され、現在も会合や文化活動などに利用